

煙道(トンネル状で家の外へ煙を出す)

かまどの基礎部分
(本来はドーム状になっていた)

火をたいた跡

1400~1300年前から
朝鮮半島との関わりが!?



朝鮮半島由来の L字形かまどが 確認されました

小郡市が発掘調査を進めている「干潟猿山遺跡」で、古代の集落跡を発見。L字形かまどが備った住居も確認されました。

これは、朝鮮半島で見られる「かまど」と共通するもので、その時代に朝鮮半島と当地域の関わりが考えられる重要な発見です。

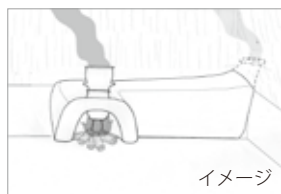
圃文化財課 ☎75-7555

つっこ用語解説

- ◆刀子 小型のナイフ
- ◆権 はかりの道具
- ◆刻書土器 文字を土器の表面に刻んだ土器
- ◆官衙 役所の跡
- ◆官道 当時の国道



埋蔵文化財調査センター
イメージキャラクター
つっこ



〈L字形かまど〉

煙道が壁に沿って取り付く構造で、上から見るとL字になっています。かまどで煮炊きをした熱をそのまま外へ出さず、煙道を曲げて家の中を通すことで暖房効果があります。

かまどが見つかった住居20軒のうち13軒では、特殊な「L字形かまど」を確認。この「L字形かまど」は壁に沿って煙道が取り付けられ、煙道から伝わる熱を利用した暖房施設と考えられています。

L字形かまどには暖房の役割が

飛鳥〜奈良時代の集落跡を発見!
「干潟猿山(ひかたさるやま)遺跡」で、今から1400~1300年前(飛鳥〜奈良時代)の集落跡が確認され、竪穴住居46軒、掘立柱建物17軒、土坑7基が見つかっています。また須恵器や土師器をはじめ、鉄製の鎌や刀子、刻書土器、土製の権などの貴重な発見がありました。



奈良時代の小都市周辺の地図

現在の干潟遺跡群は旧「日方郷」

干潟遺跡群は、花立山の西側に広がる台地の上にあります。遺跡群の広がりには南北約1km、東西約900m、およそ90万㎡で福岡PayPayドーム13個分です。これまでに、竪穴住居159軒、倉庫などの建物67棟、お墓139基、ゴミを捨てる大きな穴113基などが見つかり、1400～1300年前(飛鳥時代～奈良時代)に、この地に人々が暮らしていたことがわかっています。

現在の小都市と大刀洗町の大部分は、奈良時代の「御原郡(みはらぐん)」と呼ばれる地域でした。御原郡に4つある大きなムラのひとつが「日方郷(ひかたごう)」と呼ばれ、現在調査中の干潟遺跡群と考えられます。



▲埋蔵文化財調査センターにある干潟遺跡の復元模型

小都市・大刀洗町では、古代御原の遺跡(上岩田遺跡・小郡官衙遺跡・下高橋官衙遺跡)やそれらの主要施設を結ぶ官道の存在が明らかになっています。そして、その御原郡内にあった大集落、当時の「日方郷」で暮らした人々の生活が干潟遺跡群の調査で明らかになってきました。また、干潟遺跡を中心とした小郡地域では、L字形かまどを持つ住居が多く見つかり、この地域における渡来系集団の存在とその役割を、さらに検討していきます。

L字形かまど発見!の今後



▲11月13日に開催した現地見学会には、122人が参加しました